

## (改訂版) 山下居留地遺跡の価値を考えるについて、これまでの経緯

平成 20 年 1 月 8 日

### 山下居留地遺跡の価値を考える会

暫定事務局 ( よこはま洋館付き住宅を考える会事務局内 )

〒240-0016 横浜市保土ヶ谷区初音ヶ丘 9-2

電話 045-335-7164 FAX 045-335-7176

昨年 11 月 23、24 日両日、山下居留地の遺跡発掘現場の一般公開見学会が開かれ、多くの見学者が来場されました。また、当居留地に関し朝日新聞 (12/12、12/19) 神奈川新聞 (12/13、12/16) 読売新聞 (12/13、12/14) 東京新聞 (12/19) 各紙、TVK テレビ (12/14) により報道されました。

当発掘地域は県有地として主に駐車場に使用、長期間大きな民間ビルも建たず、奇跡的に残った広い空地でした。

その大きな 1 街区の敷地の 70% ほどから縄文期、江戸末期、大正の関東大震災後から今日までの旧居留地商館の遺構、道路や上下水道の都市構造遺構や居留地生活の様子が伺える多くの出土品がありました。

地主たる県は昨年内にて発掘を終え、記録保存のみに留め、既に落札済みの請負業者が新年早々の掘削工事着手を予定しています。計画建物は都市再生機構も携わる公共事業として、NHK と新ホールが入ります。その建物は敷地全体にわたり、その全てを免震構造用の深い地下ピットや駐車場にし、遺構全てを除去処分する計画となっています。また、県は長期間この土地の活用問題に失敗もし、悩んでいました。

今回の発掘は近代遺跡に係わらず、考古学専門の (財) かながわ考古学財団が発掘し、その成果は大変評価の高いものです。

これほどの調査を行っている当遺跡の重要性は事業者たる県も認識していますが、全ての遺跡を破壊消滅させてしまうには、県民、市民として慙愧に耐えません。来年の開港 150 年記念として、横浜 150 年の歴史を葬り去ることになります。また元町側隣接地へも遺構は延びているはずで、民間業者による計画は遺跡を根こそぎ壊滅させてしまう恐れがあります。

ただでさえ、開港地横浜は大震災、先の戦災、その後の都市化にて、多くの開港地の歴史を失っています。

山下居留地遺跡の価値を考える会は 12 月 14 日意見交換会を開き、会を立ち上げ多くの賛同者とともに、当遺跡の価値の再検証と遺構保存等何らかの措置を事業者へ要望するため、行動を起こし、皆様の賛同、協力をお願いしています。

12 月 19 日県や市等関係部署へ要望書と署名を提出、12 月 25 日遺跡保存の具体的な提案も行い、12 月 26 日松沢知事へ直接提案説明の機会も持りました。続いて 12 月 28 日県関係部署と意見交換もしましたが、あくまでも「記録保存」を主張する県と、当会が要望する遺跡の「現地保存・再現」の考え方の相違は大きいものでした。さらに元町川隣接地の調査も強く要望いたしました。

これからも県に対し、遺跡保存を引き続き訴えていく所存です。今年はその正念場となります。

そこで、山下居留地遺跡の価値を考える会の入会及び署名、ご意見等のご協力を何卒宜しくお願い申しあげます。

添付してあります、要望書をご一読の上、入会、署名書を上記事務局へメール添付ないし、ファックスを至急送付していただければ幸甚です。

発掘現場リーフレットは「かながわ考古学財団」をご欄下さい---<http://www.kaf.or.jp/>

価値を考える会の暫定事務局の情報は随时、「よこはま洋館付き住宅を考える会」(YYJK) のホームページ内にアップ致します。<http://yyjk.at.infoseek.co.jp/> YYJKだけの検索でも引けます。